

| 番号 | 区分    | 意見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 分科会の意見・修正案                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 備考                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | オンライン | <p>&lt;上越市議会委員会条例改正案について&gt;<br/>◇ 第12条の2<br/>オンライン委員会の開催に際して委員長の許可を必要としているが、その場合委員長の許可にかかる裁量をどの程度とするのが問題である。前項の条件を満たした場合は当許可することになろうが、グレーの場合は、積極姿勢をとるのか消極姿勢をとるのかを明確にすべきではないか。→要綱第5条</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>●オンライン委員会の要件適用の判断が困難な場合(グレーの場合)も想定され、そうした場合における指針をあらかじめ決めておくことは非常に有用と考えられる。</p> <p>●一方で、そうした指針はグレーの場合に役立つものでなければならず、経験の少ない当市議会においてグレーの場合を想定し、あらかじめ検討を加えておくことは現時点では非常に困難である。</p> <p>●このため、委員長の判断が難しい場合も想定し、副委員長及び議長の見解を聴く制度も設け、判断に迷う場合は相談しながら、可否を決することとしており、<u>改正案については原案のとおりとします。</u></p> | <p>【委員会条例改正案(原案:本文まると追加)】<br/>第12条の2 略<br/>2 前項の規定により委員会が開催される場合において、オンラインによる方法で出席を希望する委員は、あらかじめ委員長の許可を得なければならない。<br/>3・4 略</p> <p>【要綱制定案(原案)】<br/>第5条 委員長は、前条の規定による申請があったときは、これを審査し、条例第12条の2第1項各号に掲げる場合のいずれかに該当すると認めるときは、オンライン出席の許可を決定するものとする。この場合において、委員長は、議長及び副委員長の意見を聴かなければならない。<br/>2 略</p> |
| 2  | オンライン | <p>◇ 第21条の5<br/>公述人の意見陳述につき、文書等による方法に関しては、議論が必要であると考ええる。中には文書等でのみ意見を陳述することができる(例えば、ろう者等、言語を発することに障がいがある場合)事例も考えられ、オンライン参加の機会を確保したことは別の次元の問題である。あらためて検討する必要がある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>●ご指摘の趣旨は正当なものであり、発声が困難な人等に対して公聴会における意見提示の機会を確保することは当然のことと考えます。</p> <p>●議長会の改正案の解説もこの点に言及しており、発声が困難な人には、第21条の5ただし書の適用により、文書等による意見提示を許可すべきとしています。(令和5年度標準市議会会議規則及び標準市議会委員会条例一部改正に関する報告書59ページ)</p> <p>●本改正は、オンライン委員会の規定の追加等に合わせ、代理人や文書などの従来の手段に電子的な手段を追加したものであり、<u>原案のとおり改正すべきと考えます。</u></p> | <p>【委員会条例改正案(原案:下線部追加)】<br/>第21条の5 公述人は、代理人に意見を述べさせ、又は文書若しくは電子情報処理組織(委員会又は委員長の使用に係る電子計算機(入出力装置を含む。))を使用する方法により意見を提示することができない。ただし、委員会が特に許可した場合は、この限りでない。</p>                                                                                                                                      |
| 3  | オンライン | <p>&lt;上越市議会議会規則改正案について&gt;<br/>◇ 第111条<br/>第2項をあたらしく設置するよりも、本文をこの主旨で改正する方がよいのではないかと、実際に現在でも委員長が委員として発言する際に委員席に着いて発言することはなく、委員長の職務を副委員長が行う取扱になっているので、実態に即した改正をすべきと考ええる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>●ご指摘はもっともと考えますが、当分科会はオンライン委員会の導入についての検討が任務であり、<u>第1項本文の要否について判断できないため、原案のとおりとします。</u></p>                                                                                                                                                                                                 | <p>【参考:会議規則改正案(原案:下線部追加)】<br/>第111条 委員長が、委員として発言しようとするときは、委員席に着き発言し、発言が終わった後、委員長席に復さなければならない。ただし、討論をしたときは、その議題の表決が終わるまでは、委員長席に復することができない。<br/>2 法第109条第9項の規定に基づく条例の規定により、委員会がオンラインによる方法で開かれている場合において、委員長が委員として発言するときは、<u>委員長の職務を行うことができない。ただし、討論をしたときは、その議題の表決が終わるまでは、委員長の職務を行うことができない。</u></p>  |
| 4  | オンライン | <p>&lt;上越市議会オンライン委員会運営要綱制定案について&gt;<br/>◇ 第4条<br/>オンライン出席の申請期限は、分科会の資料では2日前の正午となっている。先日の委員会での質疑では、他自治体の多くが3日前となっており、新潟県議会における1日前との間をとって2日前としたというニュアンスの回答もあったように感じられたが、だとすればそれはまったく不適切な設定である。あくまでも、当議会として物理的に必要且つ十分な日数にすべきである。<br/>その後の質疑では、「初めての試みであり、ZoomのIDを常に取得しているわけでもないのに2日間は必要であると考えられるが、実際にやってみて可能であればもっと短し時にすることができる可能性がある」との回答であり、「論点・ポイント」欄にもその旨の記述があるので、当面その通りにすべきと考ええる。<br/>申し上げる趣旨は、災害や事故は予め想定している時期に勃発するものではないので、発災・発生後、オンライン参加が必要で且つ可能になるのは当該委員会開催日の直前になる可能性が高いので、そうした場合に間に合わないような申請期限を設定するのは、制度設置の主旨に反するものであるということである。したがって、可能な限り申請期限を遅らせ、オンライン出席が必要な場合にはできるだけ可能になるようにすべきである。</p> | <p>●申請期限を委員会の開催日の2日前の正午としたのは、他部局と共有しているzoomIDの確保に半日(予約が埋まっても交渉して使用できるケースも想定される)、委員長の開催の可否の検討に半日、通信の確認に半日を想定し、積み上げたものです。</p> <p>●県議会を参考にしたというのは、県の申請期限が短いことを受け、手続に要する時間を見直し、短縮を検討したことを指しており、間をとったということはありません。</p> <p>●なお、ご指摘はもっともであり、機材等の整備等制度設計が具体化していく過程において可能な限り申請期限の短縮を検討していきます。</p>      | <p>【参考:要綱制定案(原案)】<br/>第4条 オンラインによる方法で委員会に出席しようとする委員は、オンライン出席許可申請書(第1号様式)を、委員会の日の2日前の日(同日が市の休日に当たるときは、その直前の市の休日でない日。以下同じ。)の正午までに議会事務局を経由して委員長に提出しなければならない。</p>                                                                                                                                    |
| 5  | オンライン | <p>◇ 第5条<br/>単独判断でなく副委員長・議長の見解を聞くことは偏った判断になることを避けるためと思われるが、そのために許可に時間がかかることが懸念される。一般的に見て当然に該当するとは考えにくく判断に迷う場合や該当しないと考える場合のみ、副委員長や議長の見解を聞くという取扱でよいのではないかと。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <p>●<u>ご意見のとおり、委員長が副委員長・議長の見解聴取の必要性について判断をする「できる規定」に修正します。</u></p> <p>第5条 委員長は、前条の規定による申請があったときは、これを審査し、条例第12条の2第1項各号に掲げる場合のいずれかに該当すると認めるときは、オンライン出席の許可を決定するものとする。この場合において、委員長は、議長及び副委員長の意見を聴くことができる。</p>                                                                                    | <p>【参考:要綱制定案(原案)】<br/>第5条 委員長は、前条の規定による申請があったときは、これを審査し、条例第12条の2第1項各号に掲げる場合のいずれかに該当すると認めるときは、オンライン出席の許可を決定するものとする。この場合において、委員長は、議長及び副委員長の意見を聴かなければならない。<br/>2 略</p>                                                                                                                              |
| 6  | オンライン | <p>◇ 第13条<br/>公述人のオンライン参加の申請期限はなぜ委員の申請期限と異なるのか理解できない。公述人に関しては、公述人として選定された際に、災害や事故があった場合にはオンラインでの参加が可能かどうかを予め確認する手続を行うことで、議員と同じ取扱ができるのではないかと。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <p>●原案に付した説明のとおり、公述人の申請期限を3日とした趣旨は、事務局で詳細を承知していない公述人のオンライン環境の確認や、委員会の進行に与える影響を検討する時間を考慮したものである。</p> <p>●<u>ご提案の手続を採用することとし、次のとおり条文を修正します。</u></p> <p>第13条 次に掲げる者は、オンライン出席申出書(第2号様式)を、委員会の日の2日前の日(同日が市の休日に当たるときは、その直前の市の休日でない日)の正午までに議会事務局を経由して委員長に提出しなければならない。<br/>(1)・(2) 略<br/>2 略</p>     | <p>【参考:要綱制定案(原案)】<br/>第13条 次に掲げる者は、オンライン出席申出書(第2号様式)を、委員会の日の3日前の日(同日が市の休日に当たるときは、その直前の市の休日でない日)の正午までに議会事務局を経由して委員長に提出しなければならない。<br/>(1)・(2) 略<br/>2 略</p>                                                                                                                                        |

| 番号 | 区分   | 意見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 分科会の意見・修正案                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 備考 |
|----|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 7  | 通年会期 | ◇ 専決処分の基本的姿勢について<br>通年議会にする目的は、専決処分を極力なくし、できるだけあらゆる事件について議会において内容を明らかにするとともに責任ある議決を行おうとすることである。したがって、専決処分は180条に該当する事件のみとすべきである。                                                                                                                                                                                                   | ●専決処分を極力なくし、180条に該当する事件のみとすべき旨のご意見は、179条の専決処分を原則として解消し、議決事件としようとする旨の分科会案に合致するものです。<br>●分科会では、ご意見も踏まえて、理事者側との論点整理に当たることとします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |    |
| 8  | 通年会期 | ◇ 専決処分を認可する事件について<br>議会として180条に該当すると判断する事件は、できうる限り最小限にすべきであり、現行の事件以外には、地方税法等の改正に伴う税条例等の改正、解散等の事由に基づく選挙費の補正予算を加えるのみとすべきであると考ええる。災害等の応急復旧に係る補正予算については、迅速な決定が必要であるという側面もあるが、その災害の実態について議会においても明らかにし市民との情報の共有を行うことの重要性を考えると、安易に市長に委任すべきではない。実際、発災の際には各議員はすみやかにしかるべく行動し、中には市長に先んじる場合もあるので、行政が必要とする迅速な対応に間に合うように議会を開催することは困難ではない。       | ●180条の専決処分事項は、できうる限り最小限にすべきであり、指定は税条例等の改正、選挙費の補正予算に限るべき旨のご意見については、179条の専決処分事項を通年会期により解消し、180条の専決処分事項は理事者側の事情を聴取しながら慎重に検討していく旨の分科会案に合致するものです。<br>●分科会では、ご意見も踏まえて、理事者側との論点整理に当たることとします。理事者側から聴取した専決処分に関する情報については委員会にフィードバックし、180条による指定事項の選定の際は委員会でも慎重に審査した上で発議案を作成します。                                                                                                                                                                             |    |
| 9  | 通年会期 | ◇ 理事者の意見聴取について<br>理事者においては、専決処分事件を厳密に限定することは自らの裁量の範囲を縮小することになるので、かなりの抵抗が予想される。しかし、これまでの実情や実績を丁寧に説明し、議会がめざしている「市民に開かれた議会・行政」というあるべき姿を共有することで理解が得られるはずである。それでも理解が得られないとすれば、行政は自ら真摯な態度を放棄し市民を裏切る姿勢を明らかにすることであり、議会として毅然として対峙すべきである。                                                                                                   | ●ご意見のとおり、分科会で論点整理を行う際は、この間の委員会の取組や改革の目的について、丁寧に説明し、理事者側と理念の共有に努めるものとします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |    |
| 10 | 通年会期 | 通年会期制度について<br>分科会の案は、一年を通して会期中ということで、緊急対応が必要な状況でも迅速に対応可能な体制が整うこと、また、179条の専決処分を制限することで、議会のチェック機能が強化され、民主的な手続がより厳密に行われることが期待される。<br><br>ただし、緊急に臨時会を開催した場合には、対応できる議員も限られる可能性があることから、臨時会を開催する予定日などをあらかじめ設定しておいて、ある程度時間的な余裕がある案件については、その予定日に臨時会を開催することとし、急を要する案件については、この予定日にかかわらず臨時会を開催してはどうか。<br>なお、この予定日は、現在、懇談会を開催している21日に設定してはどうか。 | ●現在、月例議員懇談会を開催している21日をあらかじめ臨時会の予定日に指定し、議決事件の緊急度合いに応じて、直ちに開会する場合と当該予定日に開会する場合と選択できるようにする趣旨の意見<br>●各議員は、議会活動を最優先としながらも、議会活動の合間に他の公務や、地域活動をはじめとした各種活動を行っており、定例会以外の日にもそれぞれ予定が入っていることは承知している。<br>●ご提案の日程案は、機動的な議会開会と参集の確保という両立が難しい課題の解決に資するものと考えられる。<br>●また、政策立案・政策形成の充実に伴い、予定日を政策条例発議の審議等に活用することも期待できる。<br>●以上のことから、ご意見も取り入れ、理事者側との論点整理に臨むこととします。<br>●ただし、通年会期制の趣旨を没却しかねないことや、迅速に臨時会が開会されない旨の懸念を市民に抱かせるおそれがあることから、今後の制度設計においてはこうした点にも留意しながら行うこととします。 |    |